

一般社団法人釧路市医師会長 様

北海道釧路保健所長
(北海道釧路総合振興局保健環境部長)

感染性胃腸炎の予防対策の徹底について

日頃より、感染症予防及び食中毒予防に御尽力いただき、御礼申し上げます。

保育所・幼稚園、学校、介護保険施設、医療機関等における感染性胃腸炎については、例年、冬期から春期にかけてノロウイルス等による集団感染が多発することから、流行シーズンには特段の予防対策の徹底をお願いしてきたところです。

つきましては、本年も感染性胃腸炎の流行シーズンを迎えるにあたり、次のとおり発生予防・感染拡大防止対策を徹底していただくよう、別紙のとおり管内の各関係施設長（病院及び有床診療所を含む。）あて依頼しているところですが、貴会員の医師の皆様におかれましても、集団発生に該当するような事例を診察・確認した場合には、速やかに当所あて通報いただくよう周知願います。

なお、施設において集団感染が発生した際には、当所職員による疫学調査・便検査等への協力につきましても、併せてお願いいたします。

記

1 基本的な感染（拡大）予防策の徹底

- (1) 食事前やトイレの後など、適切な手洗いを実施すること。
- (2) 調理従事者の健康管理を実施すること。
- (3) 利用者（園児・児童・生徒・通所者等）及び職員の欠席理由を確認するなどして、胃腸炎の集団感染を早期に探知するよう努めること。
- (4) 施設内でおう吐等の事例が発生した場合は、0.1%以上の次亜塩素酸ナトリウム消毒液※を用い、処理者は感染予防のため、使い捨てのマスク・手袋・エプロンを着用するなどして、適切に汚染物を処理すること。（※日常的な清掃消毒とは異なり、逆性石けん、アルコール、次亜塩素酸水などは汚染物の処理には適さないので留意すること。）
- (5) これらの対策は、ノロウイルス等による感染を想定し、一年を通して実施すること。

2 保健所への連絡

感染性胃腸炎と疑われる症状を呈する者が同時期に複数名発生するなど集団感染が疑われる場合又は症状を呈する者が増えるなど感染の広がりが見られる場合には、速やかに保健所に連絡すること。

3 衛生知識の習得

感染性胃腸炎及び食中毒の発生予防・感染拡大防止に関する研修会等を受講するなどし、衛生知識の習得に努めること。

(添付資料)

- ・北海道における感染性胃腸炎の発生状況等（資料1）
- ・北海道におけるノロウイルス食中毒の発生状況（資料2）

健康推進課保健係 生活衛生課食品保健係 TEL：0154-65-5824（保健係直通） FAX：0154-65-5352

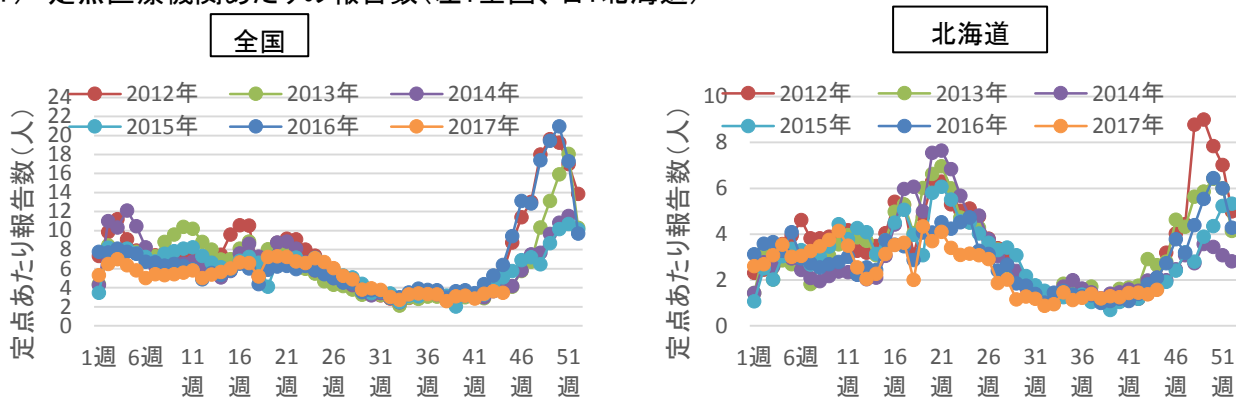
北海道における感染性胃腸炎※の発生状況

(資料1)

※病原体として、ノロウイルスの他、ロタウイルス、アデノウイルスなどを含む

1 感染症発生動向調査に基づく感染性胃腸炎の定点医療機関あたりの報告数

(1) 定点医療機関あたりの報告数(左:全国、右:北海道)



(2) 累積患者数

	H24	H25	H26	H27	H28	H29(※)
全国	1,225,390	1,066,126	1,005,079	987,912	1,116,800	701,299
北海道	26,765	24,824	21,924	22,692	21,517	15,061

(人) ※H29は第44週現在

2 北海道における集団感染性胃腸炎※発生状況等

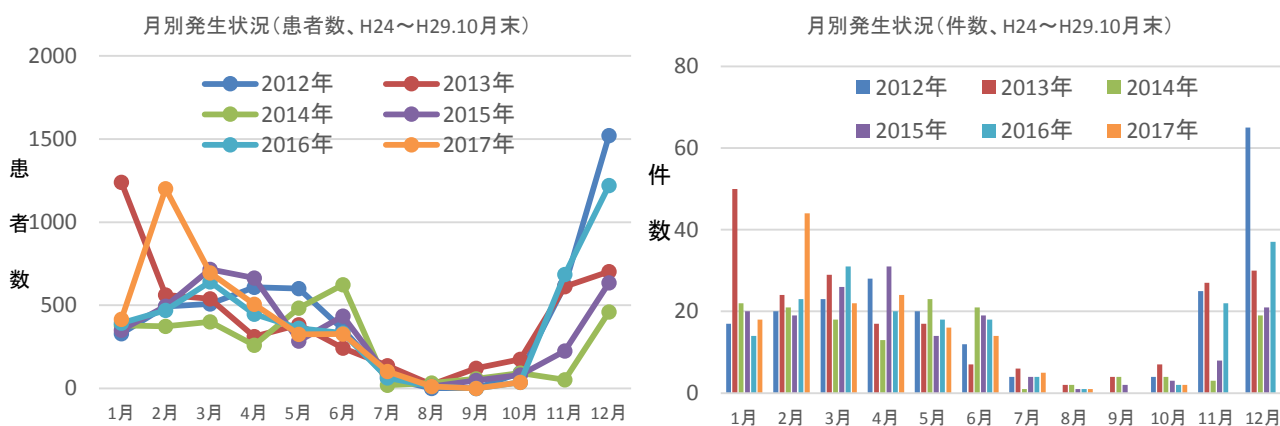
※道が施設側の通報等に基づき調査を実施し、集団発生事例として把握しているものを集計

(1) 年別発生状況

	H24	H25	H26	H27	H28	H29(※)
件数	218	220	151	168	190	146
患者数	5,193	5,052	3,237	4,031	4,671	3,625

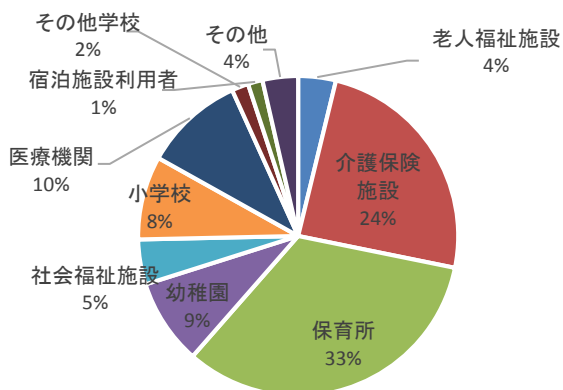
(件) (人) ※H29は10月末現在

(2) 月別発生状況

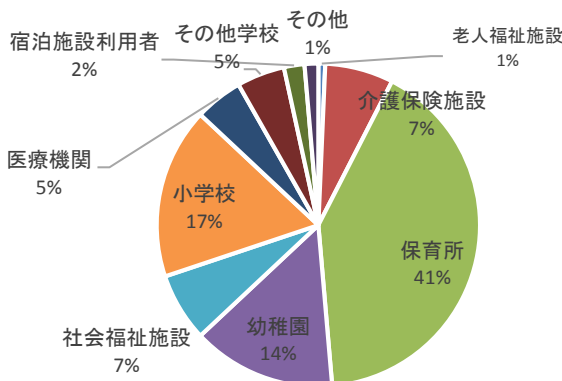


(3) 施設別発生割合

H24～H28(累計)の発生事例の施設別割合



H29(10月末まで)の発生事例の施設別割合



北海道におけるノロウイルス^{*}食中毒の発生状況

※ サポウイルスを含む

平成29年10月現在
北海道保健福祉部健康安全局食品衛生課

1 発生件数と患者数（最近3カ年）

年次	発生件数	患者数
平成29年	11件	314名
平成28年	10件	412名
平成27年	10件	162名

2 発生状況の詳細（最近3カ年）

(1) 月別発生状況

年次		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成29年	件数	4	3	2	1	0	0	1	0	0	0	-	-
	患者数	196	62	23	27	0	0	6	0	0	0	-	-
平成28年	件数	2	0	2	0	0	0	0	0	0	1	2	3
	患者数	45	0	63	0	0	0	0	0	0	19	218	67
平成27年	件数	1	0	3	3	0	0	0	0	0	1	1	1
	患者数	26	0	77	34	0	0	0	0	0	6	11	8

(2) 患者数による規模別の発生状況

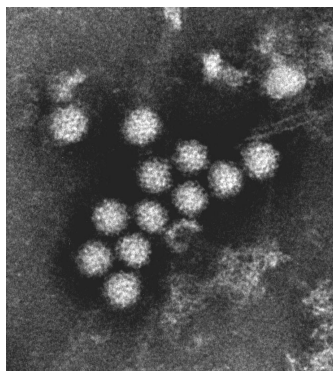
(件数)

年次	1名	2～9名	10～49名	50～99名	100名以上
平成29年	0	2	8	1	0
平成28年	0	3	6	0	1
平成27年	0	2	8	0	0

(3) 原因施設別の発生状況

年次	家庭		飲食店・仕出し		給食施設		旅館		その他		不明	
	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数
平成29年	0	0	9	194	0	0	1	27	1	93	0	0
平成28年	0	0	8	177	0	0	2	235	0	0	0	0
平成27年	0	0	9	136	0	0	1	26	0	0	0	0

ノロウイルスによる 感染性胃腸炎・食中毒を 予防しましょう！！



写真：道立衛生研究所提供

① ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒をご存知ですか？

ノロウイルスは、ウイルスの中でも小さく、球形をしたウイルスで、世界中に広く分布しており、感染した場合、急性胃腸炎を引き起こします。

このウイルスは、人から人に感染することで感染性胃腸炎の原因になるほか、ウイルスに汚染された食品を食べて感染することから食中毒の原因にもなります。

発生は一年を通して見られますが、11月くらいから発生件数が増加し、12月～翌年1月にピークとなる傾向にあり、冬から春にかけて注意が必要です。

このリーフレットを参考にして、
ノロウイルスの感染を予防しましょう！！



② どのような症状なの？

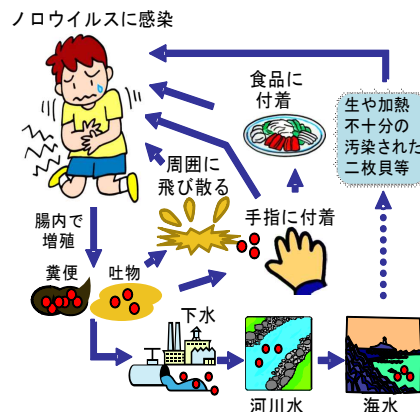


- ① 潜伏期間（感染から発症までの時間）は通常24～48時間です。
- ② 主な症状は吐き気、おう吐、腹痛、下痢で発熱は軽度です。多くは1日～2日で回復します。
- ③ 感染しても発症しない場合や軽い風邪のような症状の場合もあります。

③ どのように感染するの？

ノロウイルスの感染力は強く、ほとんどがウイルスが口から入って感染します。

- ① 家庭や共同生活施設などで、人と人が接触する機会が多いところで直接感染したり、患者のふん便や吐ぶつから人の手などを介して二次感染した場合
- ② 食品を取扱う者が感染しており、その人の手指を介して汚染された食品を食べた場合
- ③ 汚染された二枚貝を生あるいは十分に加熱しないで食べた場合
※ このウイルスは下痢などの症状がなくなっても、1週間程から1ヶ月程度、ふん便の中にウイルスの排泄が続くことがあるので、**症状が改善した後も周囲に感染を広げる可能性があります。**



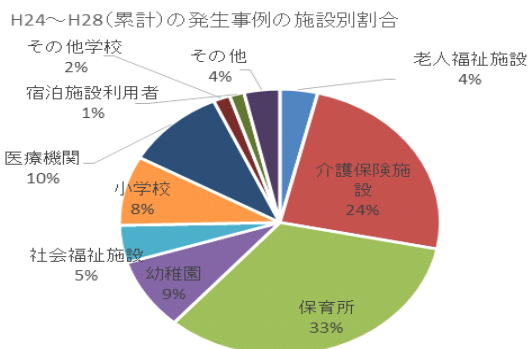
【ノロウイルスの感染経路】

④ どのような場所で発生が多いの？

過去5年間（平成24年～平成28年）に北海道で発生した集団感染事例は947件で、その発生施設割合は右図のとおりです。

介護保険施設での発生が一番多く、保育所・幼稚園、医療機関、学校、社会福祉施設など集団で生活する人々の間での感染が目立っています。

同じ時期に発生した食中毒事例は58件で、原因施設は飲食店86%、給食提供施設5%、その他9%となっています。



5 予防方法は？

ウイルスはとても小さいため、目には見えません。「ウイルスに汚染された物、場所に触れている」ことや、「症状が改善した後、症状があらわれていない場合もウイルスを排泄している」ことを想定して感染防止対策を行いましょう。

(1) 手洗い

- ① 爪を短く切って、指輪や時計をはずします。
 - ② 石けんを十分に泡立て、ブラシなどを使用して手指や手首を洗浄します。
 - ③ 流水（温水が望ましい）で十分すすぎます。
 - ④ ペーパータオルで手を拭きます。
(他の人とのタオルの共用は避けましょう。)
- ※ 石けん自体はノロウイルスの感染力を失わせることはできませんが、手の脂肪等の汚れを落とすことにより、ウイルスを手指から落としやすくします。
- ※ ②～③の手順を2回以上行くと、より効果的です。



(2) 消毒、加熱処理

エタノール系消毒剤には、ノロウイルスに対する不活化効果が期待できるものがありますが、**塩素系消毒薬**や**加熱（85℃・1分以上、ノロウイルスの汚染のおそれがある二枚貝などの食品の場合は中心部が85～90℃で90秒以上）**が効果的です。

<塩素系消毒液の作り方>

- ① 器具消毒・汚物処理用等：市販の家庭用塩素系漂白剤（濃度約5%）4mlを1ℓの水に薄めたもの（0.02%）
- ② 汚物処理物品の消毒用：市販の家庭用塩素系漂白剤（濃度約5%）20mlを1ℓの水に薄めたもの（0.1%）

(3) ふん便や吐ぶつの処理、汚染されたおそれがある場所の消毒

感染を広げないためには、ふん便や吐ぶつ、その拭き取りに使用した物を適切に処理しましょう！！

- ① 使い捨てのガウン（エプロン）、マスクと手袋を着用し、汚物中のウイルスが飛び散らないように、ふん便や吐ぶつはペーパータオルで静かに拭き取ります。
- ② ふん便や吐ぶつを拭き取った後や、多数の人が触れる手すりやドアノブなどは、次亜塩素酸ナトリウム（上記(2)①参照）で拭き取り、その後水拭きをします。
- ③ 拭き取りに使用したペーパータオル等は、ビニール袋に密閉して廃棄します。この際、ビニール袋に廃棄物が十分に浸る量の消毒液（上記(2)②参照）を入れましょう。



ノロウイルスは乾燥すると空中にただよい、これが口に入って感染することがあるので、消毒後はウイルスが屋外に出て行くよう空気の流れに注意しながら換気を十分に行い、ふん便や吐ぶつ、拭き取りに使用したペーパータオル等は放置、乾燥させないことが重要です。

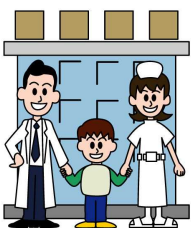
- ④ リネン類は付着した汚物中のウイルスが飛び散らないように処理し、洗剤を入れた水の中でもみ洗い後、熱水洗濯（85℃1分以上）か次亜塩素酸ナトリウムの消毒が有効です。十分すすいだ後、高温の乾燥機などを使用すると消毒効果が高まります。また、下洗い場所は次亜塩素酸ナトリウム（上記(2)①参照）による消毒後、洗剤を使って掃除をする必要があります。

※ 消毒の方法について不明な点がございましたら、最寄りの保健所にご相談ください。

6 感染したかもしれないと思ったら？

かかりつけの医師や最寄りの保健所にご相談ください。

○お問い合わせ先



**正しい手洗いはあらゆる
感染症・食中毒予防の基本です！！**

ノロウイルス



による感染症・食中毒を予防しましょう！

ノロウイルスは感染力が強く、ほとんどが手や食品などを介してウイルスが口から入って感染します。感染すると、1日から2日の潜伏期間の後、吐き気、おう吐、腹痛、下痢などの症状が出ます。多くは1～2日で回復しますが、回復後も1週間～1ヶ月の間、便の中にウイルスがありますので、注意が必要です。

ノロウイルスはあなたの手から感染します!!

効果的な手洗い

トイレに行った後や調理や食事をする前のていねいな手洗いがとても重要です。

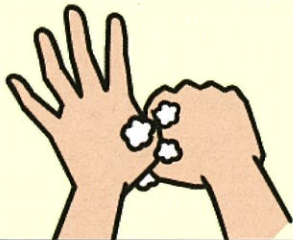
ポイント

- 温水で洗う、洗剤を使う。
- 手洗いを2回繰り返す。(2度洗い)
- タオルは共用せず、ペーパータオルなどで手をふき、よく乾かす。

*最後にアルコールスプレーなどで消毒するとより衛生的です。



汚れの残りやすいところをていねいに！



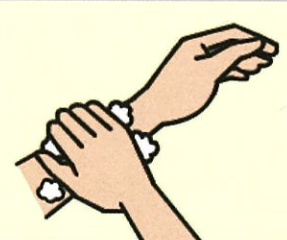
親指の付け根



指先、爪の間
手のしわ



指の間



手首

消毒

ノロウイルスの消毒には次の方法が有効です。

- 次亜塩素酸ナトリウム

(使用方法等は裏面を参照)

- 加熱

(食品の場合は中心温度85～90℃で90秒以上)



施設内感染の予防

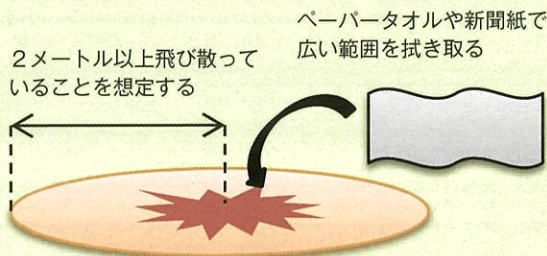
ノロウイルスは汚染物の不十分な処理で施設内に感染が広がります。おう吐物や便などを処理する際には、使い捨てのエプロン、マスク、手袋を着用し、正しい方法で消毒することで、施設内での二次感染を防止することができます。

○汚染物処理セットを用意しておきましょう。



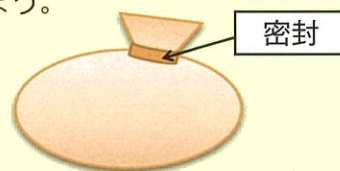
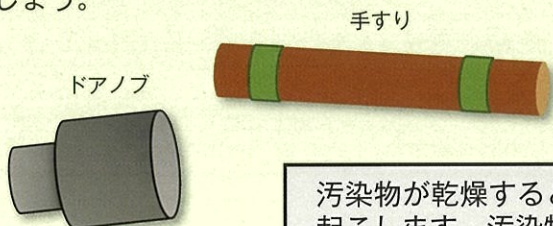
(バケツ、手袋、マスク、エプロン、消毒液、ペーパータオル、新聞紙、ビニール袋)

○汚染物が周囲に飛び散らないよう、消毒液を新聞紙やペーパータオルに浸して拭き取りましょう。



○汚染物を拭き取った後や、多数の人が触れる手すりやドアノブなどは消毒液で拭き取り、その後水拭きしましょう。

○拭き取りに使用したペーパータオル等はビニール袋に密封して廃棄しましょう。



汚染物が乾燥するとノロウイルスが空中に漂い、吸い込むことで二次感染を起こします。汚染物は放置せず、速やかに消毒しましょう。

— 次亜塩素酸消毒液の使い方 —

・消毒液は、用途に合った濃度のものを用います。塩素系消毒薬を希釈して作りますが、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤でも代用できます。

濃度		0.1% (1000ppm) 以上	0.02% (200ppm) 以上
用途		トイレ、汚染物がついた場所・物・衣類など	厨房内、日常的な清掃 (ドアノブ・蛇口)、食器、器具など
希釈方法	500ml 作るとき	原液10mlを水で500mlに希釈	原液2.5mlを水で500mlに希釈
	2ℓ 作るとき	原液40mlを水で2ℓに希釈	原液10mlを水で2ℓに希釈

※原液の次亜塩素酸ナトリウム濃度が6% (例: ピューラックス) の場合

— 使用時の注意事項 —

- ① 製品の「使用上の注意」を必ず確認してから使用してください。
- ② 手荒れの原因になるので、手指消毒には使用しないでください。
- ③ 十分に換気をしながら消毒してください。
- ④ 他の洗剤と混ぜないでください。(酸性洗剤と混合すると有毒な塩素ガスが発生します。)
- ⑤ 金属腐食性があるため、消毒後は洗い流すか、水拭きしてください。
- ⑥ 希釈した消毒液はなるべく早く使用するようにしましょう。
- ⑦ 保管する場合は、誤って飲むことが無いように消毒液であることを明記して、冷暗所、もしくは遮光性のある容器で保管してください。

施設等で調理をされる方などは、次のことにも気をつけましょう。

- 普段から感染しないように食べ物や家族の健康状態に注意する。
- おう吐や下痢などの症状があるときは食品を取り扱う作業をしない。
- 症状があることを、速やかに責任者に報告する仕組みを作る。

